



大塚教育

令和8年度10月号

文京区立大塚小学校

校長 山下 智美

3946-3421

命を守るために

生活指導主任 富田 康輔

暑さも少しずつ和らぎ、秋の気配が感じられる季節となりました。校庭には子どもたちの元気な声が響いています。実りの秋は、子どもたち一人一人の成長を実感できる季節でもあります。日々の学びや経験を積み重ねながら、心も体も大きく成長してほしいと願っています。

夏休み中、教職員は様々な研修に取り組みました。その中で、私が改めてその重要性を実感したのが、「子どもたちの命を守るための備え」です。

先日、都内の学校で火災が発生したという報道がありました。幸い命に関わる被害には及びませんでしたが、学校という場所においても予期せぬ事態が起こり得ることを改めて認識させられました。私たちは日々子どもたちを預かる者として、「もしも」の場面を常に想定しながら安全管理に努めていく必要があります。

今回の研修では、火災発生時の対応について学びました。火災時には、まず異変をいち早く周囲に知らせること、煙や炎の拡散を防ぐこと、そして状況を的確に判断しながら安全な場所へ避難することが重要であると再確認しました。こうした対応は決して特別なものではなく、一つ一つの基本的な行動の積み重ねによって支えられています。しかし、その「当たり前」を確実に実践できるかどうか、緊急時には大きな差となって表れます。

本校ではこれまでも避難訓練を計画的に実施してきました。訓練は単に決められた行動を覚えるためのものではありません。自分の命を守るために何を考え、どのように行動するのかを学ぶ大切な機会です。子どもたちには、放送や周囲の状況をよく確認し、自ら考えて行動できる力を身に付けてほしいと願っています。

災害や事故は、いつ起こるか分からないからこそ、日頃から備えを重ね、いざという時に落ち着いて行動できるようにしておくことが大切です。これからも本校では、教職員一人一人が安全への意識を高くもち、子どもたちが安心して学び、生活できる環境づくりに努めてまいります。

<大塚の窓>

4年担任 関口 奈生人 志村 容子

上学年の仲間入りをして半年が経ちました。高学年としての意識も芽生え、日々の生活の端々に頼もしい姿が見られるようになってきています。

1学期は、校外学習として「自然体験教室」と「日生劇場での観劇」に出かけました。バスや地下鉄を利用した移動や、多くの人が集まる公共施設での活動を通して、社会的なルール・マナーを守ることや集団で行動することの大切さを実体験から学びました。9月には、学校での「防災宿泊体験」を行いました。消防署のご協力による防災訓練をはじめ、毛布ガウンや新聞紙スリッパの作成、中央大学の学生の皆さんをお招きして行った避難シミュレーションゲームなど、様々な体験を通して「自分たちの力でできる防災」について考えを深めました。

後期も、地域や社会への視野をさらに広げる多様な体験活動を予定しています。今後も一つひとつの体験を確かな学びへとつなげ、子供たちの意欲と成長を育み、温かく支えてまいります。

10月の生活目標 「体力づくりをしよう」

生活指導主任 富田康輔

朝夕には秋の気配が感じられるようになり、過ごしやすい季節となってきました。一方で、日中はまだ暑さの残る日もありますが、子どもたちは休み時間になると元気いっぱい外へ出て、体を動かして遊んでいます。

本校では、長縄跳び大会やマラソン大会などの活動を通して、子どもたちの体力向上を図っています。体を動かすことは、丈夫な体をつくるだけでなく、気分転換や心のリフレッシュにもつながります。また、適度な運動は学習への意欲や集中力を高めることも期待できます。

「スポーツの秋」といわれるこの季節は、体力づくりに取り組む絶好の機会です。散歩やジョギング、公園での運動、サイクリングなど、身近なところにも気軽に楽しめる運動がたくさんあります。過ごしやすい気候の中で、子どもたちがすすんで運動に親しみ、体を動かす楽しさや心地よさを感じながら、健康な体づくりにつなげてほしいと願っています。